

一 対象 小学校 高学年

二 主題名 命を尊び、力強く生きていく

三 ねらい

口蹄疫で失った牛の命の尊さに気付かせるとともに、自他の生命を尊重し、力強く生きていこうとする心情を育てる。

(3) (1)

四 発達の段階と資料の特質

生命を尊重するということは生命の誕生から死に至るまでの過程を大切に考えることである。小学校高学年の児童は、生命が祖先から自分、そして子孫へと受け継がれることを理解し、命の尊さを自覚できるようになってくる。生き物すべての誕生の喜びや死の重さ、共に生きるすばらしさを考え、力強く生き抜く心情を育てたい。

本資料は、中山間地で祖父母の近くに暮らす主人公が、口蹄疫で牛を失っていった理由を知る過程で、口蹄疫の悲劇に負けず力強く生きていく祖母の決意を手紙で知り、命の尊さについて考えるという内容である。主人公の気持ちを考えることで、力強く生き抜こうとする心情を育てることができる。

五 展開例

- 1 生き物を育てた経験について話し合う。
- 2 資料「希望の子牛」を読んで、話し合う。
  - (1) おばあちゃんの牛もいなくなったことを聞いて、わたる君はどんなことを考えたでしょう。
  - (2) わたる君はおばあちゃんの手紙の内容を聞いた後、おばあちゃんにどんなことを言いたかったでしょう。
  - (3) わたる君は、どんな思いで「希望」と名付けたのでしょうか。
- 3 今までに育てた動植物から新しい命が生まれた経験について話し合う。
- 4 心のノート「いま生きているわたしを感じよう」の詩を朗読する。

六 指導上の留意点

資料を読む前に、口蹄疫の新聞記事を紹介することで口蹄疫でどのように人々が苦しんでいたのかを、大まかにつかませるとよい。  
展開例4では、心のノート「いま生きているわたしを感じよう」の詩を読ませることで、生きることの喜びを、共感できるようにする。

七 参考資料等

宮崎日日新聞 社会面「中山間地に生きがいを」  
平成二十二年六月十三日の記事